



映画「からむしのこえ」上映会・講演会

Photo: Daisuke Bundo

# からむしのこえ

時間：92分

制作年：2019年

監督：分藤大翼

撮影、録音：春日聡、分藤大翼

編集：分藤大翼

題字：華雪

制作：大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館

日時：2021年2月20日（土） 13:30～16:00（開場13:00～）

会場：西郷地区公民館 / 入場無料・電話予約制（定員50名/ご予約先は裏面をご確認ください）

新型コロナウイルス感染拡大の状況により、中止・延期等の可能性があります。悪しからずご了承ください。

講師

分藤 大翼

Daisuke Bundo

映像人類学者 / 信州大学准教授



1972年大阪府生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。1996年よりカメルーン共和国の熱帯雨林地域に暮らすBaka（バカ）という狩猟採集民の調査研究を行なう。主な映像作品のひとつ、『Jo Joko』は2013年にセルビア共和国で開催された第22回国際民族学映画祭においてUNESCO南東ヨーロッパ無形文化財保護地域センター特別賞を、2017年にフランスで開催された映画祭 Les Rencontres du cinéma documentaireで観客賞を受賞している。『からむしのこえ』（2019年）は国内で制作した最初の作品である。主な共著は『森と人の共存世界』（京都大学学術出版会）、『見る、撮る、魅せるアジア・アフリカ！—映像人類学の新天地—』（新宿書房）他。

からむしがつなぐ伝統とものづくり  
福島県の山間に、数百年前から「からむし」を栽培してきた村がある。奥会津昭和村。『からむしのこえ』は、この昭和村を舞台に、からむしと共に生きる人々を描いた記録映画である。村人は田畑を耕し自給生活を営むなかで、からむしという植物を育て、繊維を取って糸をつくり、布を織る暮らしを今もなお続けている。  
「からむしだけはなくすなよ」  
先人の想いは、親から子へ、子から孫へと伝わり、その技術は大事に守り継がれてきた。長い冬の間深い雪に閉ざされる昭和村の人たちにとって、からむしは貴重な換金作物であるとともに、心の支えでもあったという。  
女性たちの手は魔法のようにキラ（光沢）のある上質な繊維を生み出していく。栽培から糸づくり、織りに至るまですべての工程を昔ながらの手作業で行うため、帯や着物の完成には、糸づくりだけでも数カ月、織り上げるまでには1年以上もの時間がかかる。根気のある大変な仕事だが、映画のなかで語られるつくり手たちの言葉や笑顔には、からむしへの愛情と誇りが満ちあふれている。豊かな幸せとは何か。昭和村のやさしい暮らしの風景は、生きるうえで大切な何かを教えてくれるだろう。

い



## ご予約先

西郷地区公民館

TEL: 0858-85-0445

※ 平日 9:00-17:00

※ 定員 50名

新型コロナウイルス感染予防対策に  
下記のご対応をお願い致します

## ＜マスクの着用＞

マスク着用の上でご来場いただき  
講演中もマスクの着用を  
お願い致します

＜ご来場時、退場時の手指消毒＞  
館内にご用意しております消毒液で  
手指等の除菌対応をお願い致します

＜ご来場時の体調について＞  
ご来場の際は全てのお客様に  
体温の計測をさせていただきます  
※37.5度以上の場合  
ご入場をお断りさせていただきます。

ご協力のほど宜しくお願い致します。



文化庁文化芸術創造拠点形成事業

令和2年度 鳥取県工芸・アート村推進事業